

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。
記

令和2年度病害虫発生予報第4号(7月)
令和2年度病害虫発生予察注意報第3号
令和2年度病害虫発生予察特殊報第1号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085(内線471)
ファックス 0561-63-7820

令和2年度病害虫発生予報第4号(7月)

令和2年7月2日
愛知県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量はほぼ平年並	±
	紋枯病	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量はほぼ平年並 7月の気温は高い	± +
	トビイロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	セジロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	カメムシ類	多い	県全域	畦畔における6月の発生量は多い 予察灯における誘殺数はやや多い	+ +
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い	+

・防除対策

〔いもち病（葉いもち）〕

一部ほ場でいもち病（葉いもち）の発生が確認されました。今後のほ場の状況に注意しましょう。詳しくは本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第2号」を参照してください。

〔紋枯病〕

紋枯病を対象とした育苗箱施薬を実施していないほ場で発生を確認したら、病斑が上位葉に伸展する前に、オリブライト1キロ粒剤、バリダシン液剤5、モンカット粒剤、モンガリット粒剤などで防除しましょう。

〔カメムシ類〕

除草が不十分なほ場の畦畔の一部で、カスミカメ類が多く捕獲されています。日頃から畦畔の雑草管理を行い、特に出穂2～3週間前には丁寧に除草しましょう。詳細は本日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

〔イチモンジセセリ（イネツトムシ）〕

多発時には、パダンSG水溶剤などで防除しましょう。

・留意事項

セジロウンカの発生量は本田で平年並です。また、トビイロウンカは本田でも予察灯でも確認されていません。発生状況等詳細は本日発表の「ウンカ情報第1号」を参照してください。

5月下旬に豊田市、安城市、西尾市など22地点107ほ場のムギほ場で捕獲したヒメトビウンカの縞葉枯病保毒虫率は4.5%で平年並でしたが、保毒虫率が高い地点もありました。ほ場をよく観察し、縞葉枯病の症状を認めた場合は、周囲への拡大を防ぐため、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行いましょう。防除対策等詳しくは、6月17日発表の「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温は高い	- +
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± +
ナシ	黒星病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 6月のモモの被害新梢率はやや多い	± +
	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量は少ない 7月の気温は高い	- +
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
モモ	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 6月の発生量はやや多い	± +
	ハダニ類	多い	県全域	6月の発生量は多い 7月の気温は高い	+ +
ブドウ	べと病	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	黒とう病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生量はやや少ない 粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	- +
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量はやや多い 7月の降水量はほぼ平年並	+ ±
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+

・防除対策

【ウンシュウミカン・そうか病】

発病した葉や果実は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤やストロビードライフロアブルなどで防除しましょう。

【ウンシュウミカン、ブドウ・チャノキイロアザミウマ】

本種は成虫発生ピークが防除適期です。有効積算温度を利用した成虫発生ピーク予測日等は、6月18日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

【ナシ、モモ・ナシヒメシンクイ】

ノーモルト乳剤やフェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

【モモ・ハダニ類】

発生が多いほ場では、ダニコングフロアブルやマイトコーネフロアブルなどで防除しましょう。

【ブドウ・べと病】

発病した葉や果実は取り除き、園外へ持ち出して処分しましょう。レーバスフロアブルやエトフィンフロアブルなどで防除しましょう。

【カキ・角斑落葉病、円星落葉病】

発生を確認したほ場や昨年発生したほ場ではオンリーワンフロアブルやストロビードライフロアブルなどで防除しましょう。

【果樹共通・カメムシ類】

5月28日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

・留意事項

果樹の病害の多くは、降雨により感染が拡大します。降雨の合間を逃さず、防除を徹底しましょう。

6月の降雨によるナシ黒星病の感染が心配されます。本病は病原菌に感染後、半月から1か月程度で発病するとされています。発病した葉や果実は取り除き、園外に持ち出し適切に処分するとともに、必要に応じて防除を行いましょう。

モモせん孔細菌病は風雨により感染が広がります。風当たりの強いほ場では特に注意しましょう。

野菜

・留意事項

コナガは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。収穫残渣は本種の発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白さび病	平年並	山間部	6月の発生量は平年並 7月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	少ない	県全域	6月の発生量は少ない 黄色水盤、黄色粘着トラップに おける誘殺数は平年並	- ±
	ハダニ類	多い	県全域	6月の発生量はやや多い 7月の気温は高い	+ +
	アザミウマ類	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±

・防除対策

〔キク（露地）・ハダニ類〕

アグリメックやカネマイトフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

オオタバコガは、フェロモントラップにおける誘殺数がやや多い地域があります。オオタバコガ幼虫による成長点への加害を防ぐため、今後の発生状況に注意し、適宜防除を行いましょ。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月2日発表）

〈特に注意を要する事項〉

2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%